

「授業備品」N027 H. 28. 11. 16「4種のユニバーサルデザイン」(6県に配布中)

全国学力学習状況調査で成果を上げた学校の方策を分析をした。中央教育審議会が提案した「チーム学校」「ユニバーサルデザイン」を実践した学校ほどよい成果を出した。授業を受ける生徒のことを考えず、教師それぞれが違う授業展開・板書、ノート指導の学校は、結果を出せなかった。解決のカギは、授業のユニバーサルデザインにある。4種のユニバーサルデザインを力強く進めて欲しい。

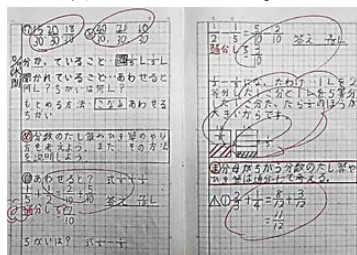
1 板書のユニバーサルデザイン

学習過程が同じであれば、教科が違っても板書は似てくる。「課題」があれば、「まとめ」がある。「振り返り」はどの教科も行わなくてはならない(学習指導要領総則)。次期学習指導要領の示す「深い学び」は、考察や練り上げに当たる。こうした内容を構造的に板書すれば生徒は混乱はしない。教師全員で統一するとよい。

本時の資料	課題	学び合い1 (出し合う)	学び合い2(考察)
気付いたこと 考えられること 調べたいこと	一人学び ペア学習 班学習		・比べる まとめ 振り返り

2 ノートのユニバーサルデザイン

これまでの生徒のノートは、「全員が同じ内容」を書くことが多かった。教師が主体的に板書をしたことを機械的に写していたからだ。これでは、「写す力」があっても、「思考力」が育つノートとはならない。ノートは、自分の考えだけでなく仲間の考え方を書くためにある。マイノート」だ。



自分の考えが分かるノートにしてください。

3 見通しのユニバーサルデザイン

「自力解決」で解ける生徒は黙々と解く。だが課題を解けない生徒、発達障害の生徒はどうすればよいのだろう。結局は、分かる子中心の授業展開が中心となり、「固まる」「終わる時間を待つ」しかない。そこで、全教科、課題が解けるかどうかを予想する(見通しを立てる)等の策を講じることが重要だ。カギは、生徒対生徒。

(1) 問題を書き、線を引く(生徒の司会原稿)

(教師)(問題(資料)の提示)Ⅰ問いの提示

司会 「問題を1分間、一人で見てください。」Ⅱ問いを持つ

司会 「分かっていることは?」「聞かれていることは?」「解き方は?」Ⅲ問いの共有

司会 「解けるかどうかの合図(グー(解ける) パー(解けない))をしましょう。」(見通し)

司会 「みんなで課題を考えましょう。」

友 「今日の課題は、〇〇と聞かれているので〇〇だと思います。」

(2) 見通しを持ち、学習の流れ、課題の確認をする。一人学び開始

○自力解決に入ったら再度解けるかどうか「見通し」の確認を行う

司会「課題を読みましょう。」

司会「今日の課題は、〇〇です。それでは、一人学びを始めてください。」Ⅳ自力解決

司会「1分たちました。解けていますか。グー(解ける) パー(解けない)の合図をしましょう。」(見通し)

4 「集団解決(学び合い段階)」のユニバーサルデザイン

一問一答の授業は、教師中心の説明型授業となり、生徒はすぐ忘れる知識となりやすい。生徒は、本来、教師の一方的な話を聞くより、自分たちで話し合い課題解決を図ることを望んでいる。

